

2010年の健診エコーで肝臓に腫瘍が2ヶあると工場保健会のDrから言われた。自宅から遠いので京都医療センター消化器科へ紹介状をお願いした。62歳12月に検査入院。小腸カルチノイドと診断。

2011年1月入院手術で肝臓の右？5.6.7.8と切除、左？も少しこそげ、小腸も少し、たんのうも切除して、覚醒するまで10時間足らずを要し始めての大手術だったと記憶しております。術後観察室で気がついて娘らが夜に帰ってと思いません。

2日目、Dカテーテル挿入、ソルダム点滴、他に体液を外へ出す左右のチューブを装着しながら、Bedサイドで方位をナースから促がされ痛みを感じながらも立てたこと。

3日目、カテーテルが外され自身でトイレへ行った。

4日目、普通病室へ移動、右チューブが外され洗濯物を洗濯機へ自立活動。

5日目、左チューブも外され点滴も外され、服薬が始まる。回復してきた身体が真つすぐに歩けるほどとなりました。

入院中に二女が女の子を出産、見舞ってもやれず、長女は二女の見舞いと私の所へも来てくれて感謝の思いでした。ホッチキスも外れ、2/3の63才の誕生日に退院をしました。

1ヶ月後、3ヶ月後の受診を得て、2014年4月に再発(大小4~5ヶ)。KDrから治療の説明を受ける。原発が小腸腫瘍という事で、4/30~5/1の短日で入院第一回右臀部に120mlの注射を受けた。翌朝もDrとCoが来られて様子を聞かれて退院した。

ITM-014 帝人ファーマ(株)提供の治療薬剤を4週間毎に右左臀部注射を交互に2017年7月最終月迄受けた。副作用としては、白色便(コーティング様)、腹部膨満、鼓腸(ガス)、倦怠感、臀部は硬結したりでした。8月からは保険適用となり5週間に一度ソマチュリンの薬名で治療を受けていました。ソマチュリンの効果は細胞が大きくなるのを抑えると聞いていましたが、2018年6月のMRIで1ヶだけ5.8cmの大きさになり、7/3に入院、肝動脈塞栓療法で抗ガン剤ファモルビジ剤をソケイ部から血管注入。術後、一般病室で抗炎症剤点滴やらで、身体がしんどくて食事が進まず、7/11にフラ状態で退院。副作用で熱っぽく怠く、味覚異常や筋肉のピリピリ感とかで、1ヶ月半位身体をもてあましていた状況です。

退院後の通院でしんどさをDrに訴えると、私が虚弱体質で抗がん剤が効き過ぎたらしいという返答でした。その後、大きさは3~4cm位で小さくなっていて、ソマチュリン治療を継続していたのです。

2019年6月DET-CTを受け、8月にMRIを受けた結果、18年抗がん剤の治療で死滅しているものもあるが、別の細胞で2cm位があると診断され、血管造影の抗がん剤を勧められたが、辛い副作用の記憶にあり、2度目の外科手術が可能かどうかを検査で確認するという事で、3日間通院しました。外科のIDr(8年前の折も)から画像を見ながら説明を受けた。

10/15手術、8:30にope室徒歩、手術台で背中を丸くして硬膜外麻酔の際に背中を丸めた時点でもう意識がなく、意識が回復したのは夕方4時頃、ICUで娘2人を見た時でした。ICUで1泊して、一般病室へ戻りました。執刀して頂いたODrからは、2回目の左？肝臓切除だったが、除去できたと聞きました。38℃台の熱やカテーテルにつながっている尿、ソルダム3A点滴を1日に3本の治療、傷の痛みもありながらつながっているバー(挿絵)を引きながらトイレへ行ったり動いていました。硬膜からの痛み止めも外れ自由のなった事も今は思い出です。口からの麻酔の影響もあり、声が声にならずハスキーで言葉も伝わらずもあり、熱も37.5~6℃ありましたが、リハビリも始まり院内廊下や階段をナースと歩いたりしました。ただ肝臓が腫れており、10/24ホッチキス外し、採血で数値が2000とかで、ODrも案じておられた。加療もないので、10/27に退院。

肝臓を1~8に分けると右？は5~8になり、11年1月今回は3を除去し、従来からの元気なのは1,2,4と右？の元の形に戻った分だけです。数値も少しずつ下がるときと基準内ではありませんが、まだ術後2カ月にも達していないので、心配はしていません。

ソマチュリン注射は10/1以来、治療はありません。

2019年12月9日 M・Y